

N I Eワークシート小中～高校

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 増加する交通事故死者数に対し、施行された法律は何か書きましょう。

2 1970年代ごろ、取られた対策を本文中から1文で抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

3 1980年ごろ以降に死者数が再び増加した理由を、本文中から1文で抜き出し最初の3文字を書きましょう。

4 空欄に入る数字を書きましょう。

5 2025年11月末までの県内の死者数が最も多い年代と状況を、それぞれ本文中から抜き出しましょう。

年代	状況

県内交通事故死過去最少98人

25年 安全意識向上、車両進化

2025年に兵庫県内で起きた交通事故の死者数は98人で、統計を取り始めた1947年以降初めて100人を下回り、過去最少となったことが5日、分かった。ピークは「交通戦争」と呼ばれた69年の740人で、全国的な傾向と足並みをそろえるように減少してきた。悲惨な事故のたび道交法（60年施行）が改正され、車の安全性も進化。ドライバーの安全意識も高まり、半世紀を経て大台を割り込んだ。

（森下陽介）

統計史上初100人切る

警察庁によると、全国で最も死者が多かったのは70年の1万6765人。日清戦争の死者数に迫ることから「交通戦争」とまで呼ばれた。マイカーが普及する一方、歩道や信号機など交通インフラの整備が追いついていない時代だった。

同年に交通安全対策基本法が施行され、国を挙げた対策が本格化。インフラ整備に加え、交通関係の警察官を大幅増員して取り締ま

りが強化された。安全運転の機運も高まり、全国的に死者は一気に減ったが、80年ごろ以降に再び増加。第2次ベビーブーム前後の若い世代が、運転技術の未熟なままハンドルを握るようになったことが背景にあるとされる。

その後、シートベルト着用義務化や飲酒運転の厳罰化などが導入され、エアバッグや自動ブレーキなど車の安全技術も大幅に進歩。兵庫では年代半ばから減少傾向に転じ、新型コロナウイルス禍で外出自粛

の影響があったとされる2020年は110人、23年には103人で最少を更新していた。

昨年11月末までの県内の死者（86人）を年代別にみると、65歳以上の高齢者が49人で約6割に上った。状況別では、自転車を含む車両同士の事故が最も多く、死者の半数近くが自動二輪の運転者だった。死者のうち自転車に乗っていたのは13人で、いずれもヘルメットを着用していなかった。

県は21年、交通安全対策の指針となる「第11次交通安全計画」を策定。25年までに年間死者数を80人以下に抑える目標を掲げている。達成には至らなかったが、引き続き県警と連携して対策を進める。



NIEワークシートのこたえ（2026年1月8日公開）

◆ワークシート「県内交通事故死最少(社会)」 2026.1.6付 朝刊 1面 解答

- 1 交通安全対策基本法
- 2 インフ
- 3 第2次
- 4 90 (1990)
- 5 年代 (65歳以上の)高齡者 状況 自動二輪の運転者